

平成 27 年 12 月 24 日
国立大学法人横浜国立大学
東日本高速道路株式会社関東支社

横浜国立大学とNEXCO東日本の包括的な連携推進に 関する協定の締結について

横浜国立大学(神奈川県横浜市)と東日本高速道路株式会社関東支社(埼玉県さいたま市)は、相互の包括的な連携推進に関する協定を平成 27 年 12 月 24 日(木)に締結しました。

1 目的

各機関の研究開発能力・人材・設備を相補的に活用し、高速道路の防災およびリスクマネジメント分野における産学連携を推進することにより、研究成果の社会活用を促進するとともに、先端的な技術力と広い視野を有する研究者や技術者の育成に貢献することを目的としています。

2 連携内容

- 共同研究等の実施とこれに伴う研究者及び技術者の相互交流
- 地域特性を活かした研究及び研究成果の活用
- 教育・人材育成の推進及び相互支援
- その他、本協定の目的を達成するために必要な事項



《参 考》

○ 最近の連携事例

➤ 関越自動車道 片品川橋の耐震補強

片品川橋は昭和60年に開通した、橋長約1,034mの鋼トラス橋であり、多数の橋脚の高さが60m以上となる大規模な橋梁です。鋼トラス形式は地震時の挙動が複雑であり、地震作用に対する橋梁の安全性等の評価に関して高度な知見と技術が求められます。このため「関越自動車道 片品川橋補強検討委員会」を設置し、横浜国立大学山田 均教授のご指導を仰ぎながら構造特性に応じた解析等を行い、耐震補強を実施しています。



片品川橋

○ NEXCO 東日本の防災に関する取組事例

➤ サービスエリアの防災拠点化

東日本大震災において、高速道路のサービスエリアが自衛隊や消防などの集結拠点や中継拠点として活用されたことを受けて、災害発生時に関係機関が災害救助活動を効果的に行うために、自家発電設備や井戸などのライフラインのバックアップや、共同の災害対策室として活用できる機能を備えたサービスエリアを整備しています。関係機関等と合同で防災訓練なども実施しています。



守谷SA防災機能イメージ図



防災拠点運営訓練状況